

まいにちから、
まんいちまで。

北海道医療センターニュース

2015年
5月発行



山の手だよ!!

No.14

【理念】 「人と自然の健康と調和を大切にする医療を実践します」

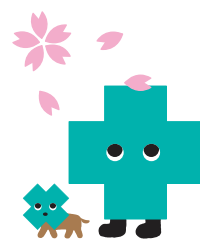
■発行所 / 独立行政法人 国立病院機構 北海道医療センター
■発行責任者 / 事務部長 池上 和孝

札幌市西区山の手 5 条 7 丁目 1-1 電話 .(011)611-8111 / FAX.(011)611-5820
ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~hokkaidomc/>



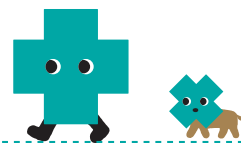
14 号 目 次

■北海道がん診療連携指定病院	北海道医療センター 副院長 伊藤 美夫 ……2
インフォメーション……………	診療科のご案内 ……2
■がん相談支援室のご紹介 ……	3
■緩和ケアチームのご紹介 ……	3
■国立病院機構における診療看護師JNP(Japanese Nurse Practitioner)とは	
JNPを目指して	救命救急部救急科 診療看護師 吉崎 秀和 ……4
日本におけるNP ……	5
今後の目標 ……	5
■～病気があってもみんなと同じ料理が食べたい～	
カボチャやコーンで卵料理風レシピ	栄養管理室 村田 明子 ……6
■デング熱再び？	感染対策室 網島 優 ……7
■ラッピングバス運行開始!! ……	8
■ロビーコンサート予定 ……	8
インフォメーション……………	ボランティアコンサート募集のお知らせ ……8



まいにちから、
まんいちまで。

北海道がん診療連携指定病院



この度、平成27年3月27日付をもちまして、当院は北海道がん診療連携指定病院に指定されました。

北海道医療センターは平成22年3月に急性期から慢性期の疾患を幅広く担当する病院として発足しましたが、新たながん診療体制を担当するに相応しい病院として道からの認定を得ることが出来ました。札幌西区の病院では初めての指定で、改めてその責任の重さを痛感しております。

がん診療については消化器内科、外科、呼吸器内科、呼吸器外科、婦人科、泌尿器科、耳鼻咽喉科などの診療科が既に手術、化学療法などの実績を積み上げております。

さらに放射線部門、病理部門については北海道がんセンターと連携し、集学的な診療を患者様に提供できる体制を整えております。

また新たながん診療支援センターの体制を設けて、緩和ケア、がん相談支援室、がん登録、さらになんサロンも始めます。

緩和ケアはチームとして活動し、身体面、精神面から患者様の症状の緩和についてサポートを行います。がん相談支援室では患者様、ご家族のがんについての様々な問題について相談支援を行っていきます。

がんサロンは他のがん患者様と気軽に話ができる交流の場です。今後はがんの患者様に対して、あらゆる面からしっかり対応出来るよう頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。



副院長 伊藤 美夫



インフォメーション

北海道医療センターには全 28 もの診療科があります。

診療科のご案内

 内科	 糖尿病・脂質代謝内科	 腎臓内科	 精神科		
 神経内科	 呼吸器内科	 消化器内科	 循環器内科	 アレルギー科	 リウマチ科
 小児科	 外科	 整形外科	 脳神経外科	 呼吸器外科	 心血管外科
 小児外科	 皮膚科	 形成外科	 泌尿器科	 婦人科	 眼科
 耳鼻いんこう科	 リハビリテーション科	 放射線科	 麻酔科	 救急科	 総合診療科



まいにちから、
まんいちまで。

がん相談支援室のご紹介

患者様のために、スタッフ全員でできること



がん相談支援室とは、がん診療連携拠点病院に設置されている「がんの相談窓口」です。当院でも平成27年度4月から開設されました。

患者さんや家族あるいは地域の方々にがんに関する情報を提供したり、相談にお応えしていきます。がん相談員として信頼できる情報に基づいて、がんの治療や療養生活全般の質問や相談をお受けしていきます。相談の内容に応じて専門医や薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカーなどの専門家が対応していきます。

がんのことやがんの治療について知りたい。がんと診断されました、少し話を聞いて欲しい。今後の療養や生活はどうなっていくのでしょうか。などの小さな疑問・不安などございましたらお話しを伺い一緒に考え問題解決のお手伝いをさせていただきますので、一度がん相談支援室へお越しください。お待ちしております。



相談場所／北海道医療センター 1階 がん相談支援室（ローソン隣り） 相談時間／月～金（祝祭日以外）8:30～17:00 まで
相談方法／面談 ●相談は基本面談とさせていただきますが、お問い合わせ、お尋ね等がございましたらお電話でもお受け致します。
●面談希望の場合は事前に予約が必要です。
●電話またはがん相談支援室で予約を受け付けます。

電話／代表 011-611-8111(内線 1150)

まいにちから、
まんいちまで。

緩和ケアチームのご紹介

チーム全員で よりよい疼痛緩和を目指します

緩和ケアとは、がんの治療ができなくなってから始めるものではなく、がんと診断されたときから、病状のどの時期においても行われる医療です。身体や心などのつらさが大きいと、体力の消耗によりがんの治療を続けることが難しくなることがある為、がんと診断された患者様とご家族の皆様の身体や心などのつらさを和らげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていくことが大切です。

当院では、平成27年度4月より緩和ケアチームが発足し院内での活動を開始しました。

チームは医師をはじめとし、看護師、薬剤師、栄養士、社会事業専門員、作業療法士等の多職種で構成されており、患者様及びご家族にとって充実した日々を送ることができるよう支援することを目的としています。

緩和ケアチーム



国立病院機構における診療看護師 JNP (Japanese Nurse Practitioner) とは

統括診療部救命救急部救急科 診療看護師 吉崎 秀和



日本の医療を取り巻く環境は刻々と変化し、平成20年6月『経済財政改革の基本方針2008』では、安心できる社会保障制度、質の高い国民生活の構築として、医師不足や救急医療など社会保障分野の重要課題に必要な取り組みの実行が閣議決定されました。

翌年には、規制改革推進のための3カ年計画の重要計画事項として、専門性を高めた新しい職種（いわゆるナースプラクティショナーなど）の導入について、その必要性を含めた検討が始まり「チーム医療の推進に関する検討会」が設置され、全36回におよぶワーキンググループで看護業務検討が行われてきました。

平成22年より厚生労働省の業務試行事業として「医師の包括的指示の下で特定の医行為を実施することができる看護職」の育成が開始され、全国の国立病院機構で JNP として活動しています。

JNPを目指して

私は看護師として、精神科、脳神経外科、救命救急、内視鏡などを経験し、当院の救命救急センター開設を機に国立病院機構に職場を変え6年目となります。救急医療に携わる中で患者の治療方針やその治療を理解し、看護行為と治療行為の双方から総合的アセスメントによる継続フォローができる診療看護師に興味を持ちました。それには更なる専門的な医学的知識の習得が必要と考え、病院推薦を頂き平成25年に東京医療保健大学大学院「高度実践看護コースに」に入学しました。

大学院では医学的介入ができるスキルを確保するために、Physical Assessment（身体診察学）、Pharmacology（薬理学）、Pathophysiology（病態生理学）の『3つのP』を中心に看護の視点を確保しながら2年間の医学教育を受けます。

1年次は、医師による講義とシミュレーターによる実技（挿管、縫合、中心静脈カテーテル挿入、動脈穿刺など）が主で、2年次は、客観的臨床能力試験（OSCE：Objective Structured Clinical Examination）合格後に、約6ヶ月におよぶ統合実習（4～5診療科を履修）に入ります。他には、2年間で研究論文の作成と医師国家試験相当の卒業試験とNP資格認定試験があります。



東京医療保健大学大学院カリキュラム概要より

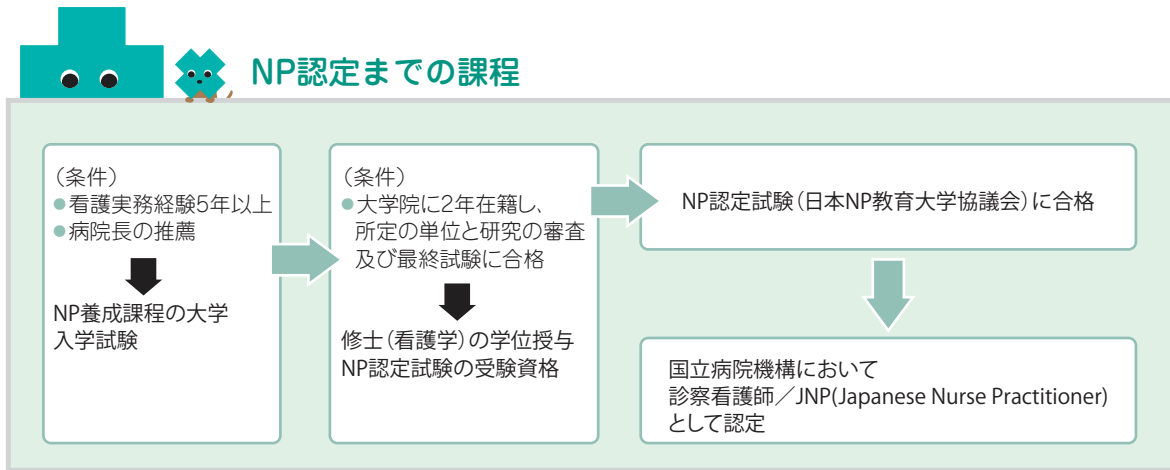
日本におけるNP

現在日本には、約200名の診療看護師がいますが、国立病院機構におけるクリティカル領域のJNPとしては北海道では初となります。

日本におけるNP（診療看護師）と欧米各国で活躍しているNPは性質が異なります。

大きな違いとしては、欧米各国のNPは医師の指示を受けずに医行為を行います。日本のNPは医師の包括的指示の下で、あらかじめ定められた特定行為を行いません。

日本では、日本NP 協議会（現・日本NP教育大学院協議会）が中心となりNP の導入を働き掛けてきました。当初は『特定看護師』の名称で国家資格としての導入が検討されましたが、安全性などを理由に反対がありました。最終的には医療介護総合推進法の一環として、保健師助産師看護師法（保助看護法）の改正による、限定された「特定行為」を医師が指示した手順書に従い実施することになりました。厚生労働省が区分ごとに指定した研修機関で研修が義務付けられ、今後は厚労省の医道審議会看護師特定行為・研修部会で特定行為や研修内容などの検討が行われ、本年10月から施行されます。



今後の目標

大学院卒業とJNP認定を受け、平成27年4月より北海道医療センターに復職いたしました。卒後研修を救命救急センターより開始し、診察・検査、診断などの過程や初期対応・治療方針、集中治療における病態を日々医師から指導を受けています。また、医師の包括的な指示のもと各種検査依頼・実施した検査の評価、浸襲の少ない超音波検査やドレーン抜去等の特定行為を経験しています。

JNPとしての自分の能力の限界を見極め、患者様に安心・安全な医療を提供するため迅速に医師に相談し連携・協働することが重要と考えています。救命・集中医療に長く携わってきた看護師経験と大学院で学んだ医学的な視点で、患者様の全体像を広角的にとらえ医師や看護師をはじめ他の医療従事者と協働し、患者様にとって的確な医療を提供できるようチームの一員として活動していきたいと考えています。そして、全国のNPと協働し、日本での法制化を目指す先駆者として活動していきたいと考えています。



東京医療保健大学大学院 高度実践看護コース第4期生
平成25年オープンキャンパスより



コラム

～病気があってもみんなと同じ料理が食べたい～

カボチャやコーンで卵料理風レシピ

栄養管理室

村田 明子

フェニルケトン尿症という病気を聞いたことがありますか？

これは生まれつきフェニルアラニンというアミノ酸を代謝することができない病気で、放置すると知能の発達が遅れたり、様々な障害を発症する恐れのある病気です。しかし、このフェニルアラニンを制限した食事療法を行うことにより、他の子供たちと変わらない生活を送ることができます。

当センターはフェニルケトン尿症をはじめとした様々な先天性代謝異常症を専門的に診療しており、栄養管理室でも、そのような患者さんに積極的に食事相談を行っています。

主な内容は、「厳しいタンパク質の制限」です。肉や魚、卵や牛乳などタンパク質を多く含む食品はほとんど食べることができません。

普通の食パンや米飯でさえもタンパク質が多すぎて食べられず、特殊な低たんぱく食品を摂取する必要があります。外食や給食もほとんど食べることができません。

この病気と闘っているお子さんが、お友達のお弁当に入っていた卵焼きを見て食べたい、と言っていたエピソードを受け、卵を使わない卵料理風の料理を考案しました。卵の代わりにかぼちゃやコーンの色味を利用し、低タンパクのフレンチトースト、オムライスなどを作ることができました。

病気があってもみんなと同じものを食べたい、この気持ちを尊重して今後もメニューを考えていきたいと思います。

この病気は治ることがなく、厳しい食事療法を一生続ける必要があります。日本には約500人の患者さんがいますが、症例数が少ないため、なかなか周囲の協力を得ることができません。

この記事を通して、このような病気と闘っている子供たちがいることを知ってもらえると、幸いです。



厚焼き卵風

- 材料：かぼちゃ
じゃがいも
片栗粉
ミルク



オムライス風

- 材料：低タンパクケチャップライス
コーンクリーム
ミルク
低タンパク小麦粉



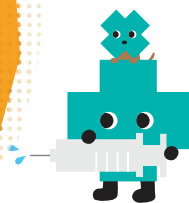
フレンチトースト風

- 材料：低タンパク食パン
かぼちゃ
ミルク

レポート

デング熱再び？

感染対策室 網島 優



昨夏国内で約 70 年ぶりにデング熱の国内感染がありました。北海道ではウイルスの運び屋であるヒトスジシマカは生息しておりませんので道内で広がることはありませんが、昨年のように国内で流行が起きると流行地で蚊に刺されることで感染することがありますので注意が必要です。

日本ではウイルスが越冬する可能性は非常に低いと考えられていますが、海外で感染してきた人を刺した蚊がウイルスを広めることで今年も流行する可

能性があります。

ワクチンは開発中ですが一般に使用できるようになるにはもう少しかかりそうですので、夏の間には本州以南で長い間屋外で活動される場合は虫除け剤を使用するなど蚊に刺されないよう対策を取って下さい。

またデング熱の危険性が高い熱帯、亜熱帯地方へ旅行される場合も同様に蚊に刺されないように対策をお取りください（検疫所の HP が有用です）。

蚊の用心。ひと刺し用心デング熱。

かゆいだけではありません！

デング熱は人から人へは感染しません。

デング熱の原因となるデングウイルスは、デング熱に感染した人の血を吸った蚊（日本ではヒトスジシマカ）の体内で増え、その蚊がまた他の人の血を吸うことで感染を広げていきます。感染してもすべての人に症状がでるわけではありませんが、高熱や関節の痛み、目の奥が痛くなるといった症状が一週間から二週間ほど続きます。冬になると蚊が減ることからデング熱の発生も収まりますが、翌年また流行することもあるので、いつでも蚊に刺されないように注意する、そんな習慣を身につけることが大切です。

【ヒトスジシマカ】
青中日本の白い線とW字状の模様がある四五ミリの蚊で、五月中旬から十月下旬ごろまで活動します。雑木林や竹林などで繁殖し、最近では野池公園などでも見られるようになっています。特に日本に活動し、吸血します。活動範囲は500メートル程度です。

●デング熱に関する詳しい情報は厚生労働省のHPをご覧ください。

デング熱 厚生労働省

検索

バーコード読み取り機能付き携帯電話でご利用できます。

ラッピングバス運行開始!!



当院のスローガンである「まいにちから、まんいちまで」とキャラクターの「まいにちくん」「まんいち犬」を車体に描いたラッピングバスが運行開始しています。

住民の健康と安心を提供し、地域に密着した病院づくりの取り組みをPRするためです。JR北海道バス琴似営業所の路線バスで西区を中心に走っています。

公共交通での病院のラッピングバスは珍しいです。皆さんはもう走っている姿を目撃しましたか？

イベント

ロビーコンサート予定

5月
23日

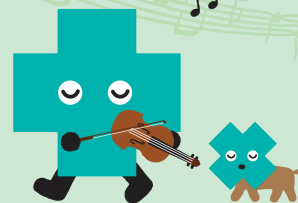
Aloha! 皆様に南国の風をお届けします♪
フラダンスショー

15:00~予定

5月
28日

ミシェーラ室内アンサンブル

15:00~予定



インフォメーション

当院では年間をとおしてボランティア
コンサートを募集しております。



連絡先

TEL:011-611-8111
(内線 5130)

北海道医療センターニュース

山の手だより

No.14

2015年5月発行

まいにちから、
まんいちまで。

独立行政法人 国立病院機構
北海道医療センター



〒063-0005 札幌市西区山の手5条7丁目1番1号

TEL.011-611-8111 北海道医療センター

検索



QRコード

